

- 1 派遣期日 令和5年11月25日(土)
- 2 派遣先 明星学園小・中学校
所在地 〒181-0001 東京都三鷹市井の頭5-7-7
TEL: 0422-43-2196
[明星学園中学校HP](#)

3 研修内容

2023年度 明星学園小・中学校 公開研究会 テーマ
『教科教育が担うものとは』

資料より抜粋(原文より引用)

この数年、明星学園として大切にしていることとアクティブラーニングやSTEAM教育などの繋がりに視点を当ててきました。総合探求的な教育の重要性を研究してきた結果です。～(中略)～教科の研究を通じて、何を・どの様な順序で・どの様にアプローチして教えるかーを目の前の子ども達に寄り添いながら検討し、授業づくりに結実していく取り組みこそが、この学園の強く強固な柱なのです。 明星学園中学校・高等学校校長 平野康弘

【時程】

受付	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	全体会	昼食	分科会
8:00～	8:45～9:35	9:45～10:35	10:50～12:30	12:30～13:30	13:30～16:30

【全体会】 …… 特別講演 内田 樹 氏

内田氏による特別講演会が行われた。現代の教育の在り方、不登校生徒への支援についてなど、学校現場での課題と今後の教育の在り方についてご講話いただいた。

印象的だったことは、①生徒の名前を固有名詞で呼ぶことで「所属感」「自己存在感」を高めることに繋がることの大切さ、②教室の音響システムを含む「つぶやき」を拾う学習指導の重要性である。

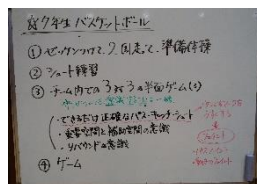
①については、さらに日常的な関わりの中で、丁寧な言葉遣いを心掛けることが大切である。学級での「自己存在感」の高まりが主体的な学びに繋がり、対話的で深い学びに向かう。学級経営による学習効果への影響は計り知れない。

②については、建築段階での教師の声の響き、生徒のつぶやきが聞き取れるような環境が大切である。教師の声が生徒に届くことはもちろん、発声も含め生徒にどのように聞こえるかが重要であり、聞こえ方の違いによって生徒の学習意欲は影響する。

【公開授業Ⅰ】 7年生 バasketボール

～工夫点について～

- ア 体育館壁面にホワイトボードを常備
⇒見やすく、活動中も流れや課題が明確になる。
- イ 各グループでの活動時間の確保による主体的な学び
⇒グループに投げかけることで生徒中心の活動になる。
- ウ 教員と生徒によるデモンストレーション
⇒グッドモデルの提示と適切な場面設定による動きの可視化になる。



【公開授業Ⅰ】 陸上競技 投種目：ジャベボール
「物をより遠くへ投げるための効果的な技術的指導について～理論と実践～」

現在明星学園中学校では、7年生（中1）で週3時間、8年生（中2）、9年生（中3）で週2時間体育の授業を行っている。その中で陸上競技の種目において、7年生では短距離種目（50m走、ハードル走）8年生では跳躍種目（走高跳）、9年生で投擲種目（ジャベボール投げ）を実施している。

～（中略）～明星学園では投動作を指導する際に、「初速（スナップ）、投射角（投擲物と身体の角度、テイクバックの姿勢）、空気抵抗」を基に指導を行っている。週2時間で一つの学期という限られた授業数のなかで、基本的な投動作の指導と実践を行なっているが技術の定着をするまでに至っていないのが現状である。特に課題として挙げられる動作は、「投射角の維持」と「テイクバックの姿勢」である。この課題を改善するためにも実技指導だけでなく、投動作の局面構造と身体構造の理論を理解させるための座学の実践も重要と考えている。
 （資料より抜粋）

～工夫点について～

ア 授業開始時の本時の流れの提示

⇒必要以上に動きを止めずに、活動時間を確保する。

イ タイマーの活用

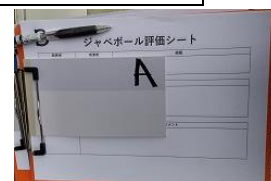
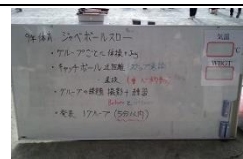
⇒時間を可視化し、生徒自身が計画を立てることができる。

ウ ICT機器と紙媒体のバランス

⇒ICT機器の活用が目的にならないよう、すぐ使えるプリントの活用

エ 電子黒板の活用

⇒瞬時に動画を写すことで、クラス全体での簡易的な共有



4 感想

授業を参観し、何よりも感じたことは「生徒の自由度の高さ」である。以前より、従来の教師主導の学習ではなく、生徒主体の学習への転換が求められてきた。現在では、生徒が主体的に学ぶ授業展開の工夫をするとともに、教師はファシリテーターとしての役割を果たす重要度が高まっている。今回の提案授業を通して、制限を掛けることと自由に考えさせるバランスが大切であり、その調整を整理していくことの必要性を改めて感じた。過度にルール遵守を伝えることで、教師間はもちろん生徒間も含めて硬さの見られる授業になってしまう。今一度、自分の授業を振り返り、生徒の自由度を制限しすぎていないかを考え、本当の意味でのファシリテーターとなっていきたい。

また、生徒がのびのびと活動し、生き生きとした表情で授業に取り組んでいた。また、良いプレーには大きな声で称賛し、活動している生徒も笑顔で喜びを表現していた。その姿こそ主体的な学びに繋がっていることは明白であり、良い人間関係によって対話が成立し深い学びになっていると再確認した。

ICT機器の活用としては、残念ながら私立中学校であり、一人一台端末が導入できていない。その中で、授業内で4台のiPadが支給され、本時の自己分析、過去の自分との比較として活用し、動きを可視化しながら話し合いと発表をしていた。「初速（スナップ）、投射角（投擲物と身体との角度、テイクバックの姿勢）、空気抵抗」のキーワードに着目し、初期段階からの具体的な変化について述べていた。技能の定着には、繰り返し取り組むことだけではなく、幅広い知識を身に付け、スパイラルアップできよう単元マネジメントをしていきたい。今回の研修を通して、フィックス・マインドセットにならず、新しいことに挑戦していきたいと強く考えた。